

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【公表番号】特表2017-516297(P2017-516297A)

【公表日】平成29年6月15日(2017.6.15)

【年通号数】公開・登録公報2017-022

【出願番号】特願2016-560655(P2016-560655)

【国際特許分類】

H 0 1 L 21/683 (2006.01)

H 0 5 B 3/68 (2006.01)

H 0 5 B 3/06 (2006.01)

H 0 1 L 21/324 (2006.01)

H 0 5 B 3/08 (2006.01)

H 0 5 B 3/12 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/68 N

H 0 5 B 3/68

H 0 5 B 3/06 B

H 0 1 L 21/324 K

H 0 1 L 21/324 Q

H 0 5 B 3/08

H 0 5 B 3/12 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月24日(2017.11.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

加熱エレメント（150、151）を支持するための支持システム（100）であって

、

高さ方向に延びる主延在方向と、近位端部（113）と、遠位端部（112）を有する支持メンバ（111）であって、前記近位端部（113）が前記加熱エレメント（150、151）を支持するように構成された支持メンバ（111）と、

少なくとも1つのヒンジ（131）を介して、前記支持メンバ（111）の遠位部分に接続されたベースメンバ（121）であって、前記遠位部分が前記近位端部（113）から遠位に配置されたベースメンバ（121）と、を備え、

前記支持メンバ（111）が、前記ベースメンバ（121）に対して、実質的に剛性方向と平行な回転軸線（132）の周りに回動可能であることを特徴とする支持システム。

【請求項 2】

前記回転軸線（132）が、前記支持メンバの質量中心から離されて配置されていることを特徴とする請求項 1 記載の支持システム。

【請求項 3】

前記回転軸線（132）が、高さ方向及び可動方向の少なくとも一方に沿って、前記支持メンバの質量中心から離れて配置されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の支持システム。

【請求項 4】

前記ベースメンバが、高さ方向において前記遠位端部から前記近位端部（113）の方向に向かって、少なくとも部分的に延在していることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の支持システム。

【請求項 5】

前記支持メンバ（111）が、実質的に平行に配置された2以上のバー（111a、111b）を備えたことを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の支持システム。

【請求項 6】

前記支持メンバ及び前記ベースメンバの少なくとも一方の材料が、少なくとも90重量%の高融点金属を含んでいることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の支持システム。

【請求項 7】

前記高融点金属が、タングステン、モリブデン、タンタル、レニウム、ニオブウム及びこれらの合金から選択されたものであることを特徴とする請求項6記載の支持システム。

【請求項 8】

少なくとも1つの加熱エレメント（150、151）と、請求項1～7のいずれかに記載された少なくとも1つの支持システム（100）を有する加熱システム。

【請求項 9】

前記支持システム（100）は、異なる支持システムのそれぞれの可動方向が共通の中心点を始点とするように方向付けられていることを特徴とする請求項8記載の加熱システム。

【請求項 10】

前記加熱エレメント（150、151）の下方に、かつ前記ヒンジ（131）および前記ベースメンバ（121）の上方に配置されるとともに、前記支持システム（100）が挿通可能な開口を有する熱シールドシステム（160）を有することを特徴とする請求項8又は9記載の加熱システム。